

《担当者名》福田真二 fukuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

音韻論、形態論、意味論、統語論の基本概念を学習しながら、ことばを構成する様々な要素を体系的に理解する。

【学修目標】

【一般目標】

ことばの仕組みについての基礎を理解することによって、言語聴覚士として言語発達障害児・言語障害者の言語データを言語学的な視点から科学的に分析できる能力を身に付ける。

【行動目標】

1. 言語の一般的特性について説明できる。
2. 音素と異音について説明できる。
3. 音声表示と音韻表示の違いについて説明できる。
4. 同化現象について説明できる。
5. 日本語アクセントの特性について説明できる。
6. 形態素と異形態について説明できる。
7. 語形成過程における派生と屈折の違いについて説明できる。
8. レキシコンの基本概念を理解し、その内部構造について説明できる。
9. 語彙範疇と機能範疇の違いについて説明できる。
10. 項とその意味役割および項構造について説明できる。
11. 基本的な文の統語構造を表記することができる。
12. 語順の違いを言語学的な視点から説明できる。
13. 格の基本概念を理解し、その表示方法について説明できる。
14. 文法格（構造格）と意味格・内在格（後置詞）の違いについて説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス（はじめに）	科目の概要、学修目標、講義日程、学修内容、評価方法、教科書、推薦図書、学修の準備、読書課題、キーワードリストの活用法、オフィスアワーの活用法、受講カードの作成法を理解する。	福田真二
2	言語学入門（言語科学のすすめ）	言語学とは/言語の一般的特性/言語の普遍性と個別性/言語研究の目的と方法論 【読書課題：①第3章「人間のことば」】	福田真二
3	音韻論Ⅰ（音の構造）	音素/異音/最小対/音声表示と音韻表示/相補分布/自由変異 【読書課題：①第7章「音の構造」（pp.79-88）、②第3章「音としてのことば」（pp.141-149）】	福田真二
4	音韻論Ⅱ（音韻現象）	同化現象：口蓋化、鼻音化、有声化等/削除規則/挿入規則 【読書課題：①第7章「音の構造」（pp.88-94）】	福田真二
5 5 6	音韻論Ⅲ（韻律構造）	プロソディー/音節とモーラ/ストレス・アクセントとピッチ・アクセント/イントネーション 【読書課題：②第3章「音としてのことば」（pp.131-140）】	福田真二
7	形態論Ⅰ（語の構造）	形態素/異形態/自由形態素と拘束形態素/語幹と接辞/派生と屈折/合成語/複合語 【読書課題：①第8章「語の構造」】	福田真二
8	形態論Ⅱ（レキシコン）	レキシコン（脳内辞書・心的辞書）とは/語彙項目/辞書表示/文法範疇：語彙範疇と機能範疇 【読書課題：②第4章「語彙と辞書」】	福田真二
9	意味論Ⅰ（語の意味）	意味関係/多義性/同義語/反義語/上位語と下位語/意味素性/選択制限/意味カテゴリー 【読書課題：②第6章「語の意味と文の意味」（pp.253-265）】	福田真二

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10) 11	意味論Ⅱ（意味役割）	項構造/項/意味役割/意味役割の階層性 【読書課題：②第1章「ことばの研究」(pp.34-38)】	福田真二
12) 13	統語論Ⅰ（文の構造）	統語構造の表記法/文の階層性/句の構造 【読書課題：①第9章「文の構造」(pp.106-112)】	福田真二
14	統語論Ⅱ（語順）	語順/句の主要部/主要部前置型言語と主要部後置型言語/世界の言語の語順 【読書課題：②第1章「ことばの研究」(pp.44-46)】	福田真二
15	統語論Ⅲ	文法関係/文法格/対格言語と能格言語/格助詞/格屈折/文法格（構造格）と意味格・内在格（後置詞） 【読書課題：②第1章「ことばの研究」(pp.31-34)】	福田真二

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

中島平三 他 編著 「言語学への招待」 大修館書店 1996年

井上和子 他 著 「生成言語学入門」 大修館書店 1999年

【参考書】

大津由紀雄 編著 「はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章」 ミネルヴァ書房 2009年

窪田晴夫 編著 「よくわかる言語学」 ミネルヴァ書房 2019年

今泉敏 他 編 「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」 医学書院 2020年

岩田一成 他 編 「言語学・言語発達学」 メディカルビュー社 2022年

大塚高信 他 監 「新英語学辞典 縮刷版」 研究社 1987年

【備考】

授業に関する連絡は、manabaを使用します。

【学修の準備】

予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。（80分）

復習は、講義の学修内容をまとめた勉強ノートを作成すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。